

議 事 録

会議の名称	岩倉市教育振興基本計画推進委員会評価部会（第2回）
開催日時	令和3年7月20日(火) 9時から11時35分まで
開催場所	市役所7階 大会議室(西)
出席者 (欠席委員・説明者)	土屋委員、益川委員、山田委員、内藤委員 説明者：教育長、教育こども未来部長、学校教育課長、生涯学習課長、子育て支援課長、管理指導主事、指導主事、学校教育グループ長、生涯学習グループ長、スポーツグループ長、図書館グループ長
会議の議題	(1) 令和2年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況についての点検及び評価について
議事録の作成方法	<input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 <input type="checkbox"/> 全文記録 <input type="checkbox"/> その他
記載内容の確認方法	<input type="checkbox"/> 会議の委員長の確認を得ている <input checked="" type="checkbox"/> 出席した委員全員の確認を得ている <input type="checkbox"/> その他()
会議に提出された資料の名称	・会議次第 ・令和2年度点検評価報告書<自己評価>
公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開
傍聴者数	0 人
その他の事項	

審議内容(発言者、発言内容、審議経過、結論等)
<p>1 開会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>土屋委員：前回に引き続いて、慎重に審議を進めたいと思いますので、ご協力よろしくお願ひします。それでは、早速審議に入ります。</p> <p>3 審議</p> <p>(1) 点検評価</p> <p>＜ 基本目標2-1から2-3までについて事務局説明 ＞</p> <p>益川委員：＜全体＞成果指標の実績値が下がるのは、コロナ禍であるため、やむを得ないことだと思います。そのため、これ以降の取組にどう関わるかということになります。代替として書面会議で実施したといったことも記載されていますが、代替で実施したことがあれば、そのことについては記載しておく必要があると思います。それから、昨年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、実績値は減少しましたが、それを良しとしても、今後の方向性として、ICTの活用など、記載できる内容は記載しておく必要があると思います。言い方はすごく悪いですが、いつまでも新型コロナウイルス感染症のせいにしておく</p>

わけにもいかないだろうと思います。そのため、できることを模索していくような方向性を出した方がよいのではないかと思います。今回の報告書を修正して欲しいというわけはありませんが、そのような視点も必要ではないかという気がします。私がある自治体の総合計画の評価に参加したときには、それが良いか悪いかは別ですが、今回は仕方ないため、評点は統一するというので、例えば5段階であればすべて4に決めたところもありました。ただ、それに加えて、今後どのように模索していくのかといったことを記載することに決めた自治体もありましたので、ぜひやれることを教育委員会で検討していただくとよいのではないのでしょうか。

土屋委員：＜全体＞委員の方は、全体としてこの点に関してはいかがでしょうか。ただ、少なくなりましたといった報告ではなく、今回はこういう結果であったが、これからはこういった点を改善していくといったことを明確に記載することや、あるいは代替でこのようなことを実施し、効果があったということを、むしろ記載した方がよいのではないかと思いますよね。昨年度は、Zoom を利用しオンラインで開催したであったり、SNS を利用して公開したであったり、ICT を利用して何か実施したといったことがあるかもしれませんが、そういうことがあれば、それも評価の中に追加して記載すればよいのではないかと思います。委員の方はよろしいですか。

内藤委員：＜No. 44＞そうですね。No.44 の「家庭教育に関する学習機会の提供」のところ、年2回開催している子育て親育ち推進会議を年1回の書面開催に代えたようですが、課題・今後の方向性では、子育て親育ち推進会議を継続実施し、子育て支援につなげますと記載しているだけでは、また同じような状況が続いたら同じように2分の1になるのでしょうか。ここには、工夫して実施していくということに少し触れてもよいのではないかと思います。

益川委員：＜全体＞岩倉市では、Zoom であるとか Teams であるとか、統一して使用している会議アプリはありますか。教育委員会だと Cisco の Webex が多いようですが。

教育長：＜全体＞統一的に庁内の会議をオンラインで実施するシステムはありません。テレワークを実施できるシステムは整っていますが、オンライン会議はできていない状況です。例えば、校長会議などの学校と教育委員会事務局の会議であれば、Teams を利用したり、広域事務組合であれば Zoom などのオンライン会議システムを利用したりしているところもあります。ただし、生涯学習関係では、まだオンライン会議システムを利用したことはありません。いずれは、考えていかなければならないと思います。

益川委員：＜全体＞おそらく、セキュリティが心配で、行政としては一番考える必要があるところだとは思いますが、既に企業や大学では日常的に使用してきています。

土屋委員：＜全体＞岩倉は、コンパクトなまちであるため、これまでのように集まって会議をしているのかもしれませんが、オンライン会議システムは、家庭や地域の団体との会議などにも活用できると思います。昨年度は、大学でも多く利用しました。今日の午後も大学の会議を Teams で実施しますが、附属の先生の委員が、大学まで来ることなく自分の職場から参加できるため、参加のしやすさがメリットになっているところもあるようです。

そのため、家庭連携や地域連携などにおいても、マイナスの部分だけではなく、このように工夫したといった点があれば、来年のためにも記載した方がよいのではないのでしょうか。ただし、今の話を聞くと、あまり内容は変わっておらず、単純に事業が止まってしまったものが多いように感じました。

教育長：＜全体＞今は、単純に止まっている状態です。今までは、イベント自体を中止したものが多いため、ネット配信するにしてもその対象がない状況でした。そのため、これから実施できるようになれば、オンライン会議システムを活用し、ハイブリッド型で実施していくことも考えていかなければならないと思います。

事務局：＜全体＞通常の会議にしても、昨年度は、新型コロナウイルス感染症がどのようなものであるのかが分からない状況であったため、念のために中止するといったことがありました。しかし、1年以上経過し、私たちも新型コロナウイルス感染症というものを勉強し、新型コロナウイルス感染症を理解した上で、昨年度開催できなかった会議等も今年度に入ってから工夫して開催しています。ICTを活用しての会議も念頭に置きながら、通常の会議も工夫して開催していくようしています。

山田委員：＜No. 51＞私も以前、青少年問題協議会専門委員会に参加させていただいたことがありました。警察や学校の先生、各PTA役員等が話し合う場で、様々な情報が飛び交い、岩倉市の青少年の問題提起もあり、非常に良い会だと思いました。また、ほっと情報メールでは、高齢者の方に向けて、振り込め詐欺の注意喚起など、市内でこのような事件が発生したため、気を付けてくださいといったメールが多く配信されています。ただ、それがかえって少し怖さを感じています。自分が住んでいる地域ではなくても、毎日、事件の情報が配信されると、怖がっている人もいるのではないかと思います。自分で情報を精査できる人であればよいですが、毎日このようなメールが配信されると、配信を停止される方もいるのではないかと思います。メールを配信されている方は、どのように思われているのでしょうか。受信者の意識調査のようなものがあると、メールの配信の仕方もし少し丁寧になったり、あるいは情報を精査したりするということにもつながるのではないのでしょうか。私の場合は、どのような情報が配信されても大丈夫ですが、心労してしまう方もいるのではないかと思います。

土屋委員：＜No. 51＞逆の作用が働くということですね。

内藤委員：＜No. 45＞外国にルーツをもつ生徒で、進学を目指す生徒は、何名くらい進路説明会に参加していますか。それから、岩倉総合高等学校では、令和2年度入試から外国人生徒等選抜が実施されるようになりましたが、岩倉の外国籍の子どもたちの進学先などを教えてください。

教育長：＜No. 45＞進路説明会は、年に何回か開催しますが、ほとんどの生徒や保護者がどこかの説明会に参加しています。また、集まりやすい午後5時や6時に開催しています。進学の妨げになるのが学費になりますが、学費に対する説明も丁寧に行っています。また、外国籍の生徒を受け入れる学校は、徐々に広がりつつあります。岩倉市でも5、6年ほど前から、公立高校へ入学できるだけの学力のある子どもも増え、毎年、何人かは公立高校

へも進学しています。

内藤委員：〈No. 45〉それは、一般入試ですか。

教育長：〈No. 45〉一般入試です。外国人生徒等選抜は、条件が厳しいため、なかなか該当者がいません。

事務局：〈No. 45〉私立高校の推薦入試で、自分の行きたい高校に進学する子どもたちも増えてきました。小学校入学の時から、高校に入学するときには、これくらいの費用が必要になることなど、学校の仕組みを保護者に重ねて説明しているため、意外とスムーズに受け入れていただき、選択肢も広がっています。

内藤委員：〈No. 45〉先日、高校へ進学していない生徒が、どうなっているのか話題になったときに、ブラジル人の方が、非行とまでは言わないまでも、進学や就職もせずにいる子どもたちを何とかしたいと言われていました。このような子どもたちのことを考えていかなければならないと思いました。

土屋委員：〈No. 45〉近隣には定時制の高校はありますか。

事務局：〈No. 45〉近隣には、定時制の高校もあり、岩倉から通っている生徒もいます。

土屋委員：〈No. 45〉これから、外国籍の人たちは、永住していく傾向が強くなると思いますので、日本の子どもと同じように進路を考えていかなければならないと思います。そのことについては、丁寧にキャリア指導をしているといったご説明でしたので、このことについても少しアピールするとよいのかもしれない。

益川委員：〈No. 46〉スクールソーシャルワーカーを配置されていることは、私は大変良い取組だと思います。機能的に動くことができれば、家庭で問題を抱えている家庭と学校をつなぐことができます。スクールソーシャルワーカーは、現在1人ですか。

事務局：〈No. 46〉1人です。

益川委員：〈No. 46〉どのような方ですか。

事務局：〈No. 46〉社会福祉士の資格も持っている方です。

益川委員：〈No. 46〉機能すると家庭問題を抱える子どもたちや保護者の方とのつなぎ役に有効的に働くシステムだと思いますので、ぜひ充実させてもらえるとよいと思います。それから、岩倉市には居所不明の子どもはいますか。

教育こども未来部長：住民登録をしていることが条件になりますが、すべて把握しており、学齢期の子どもで、学校に通っていない子どもはいません。

益川委員：他の自治体では、学齢期の子どもで居所不明の子どもは何人かいるようで、今、大きな問題にもなっています。ましてや、コロナ禍において、ますます多くなっている自治体もあるようです。しっかりと把握されていることは、素晴らしいと思います。

土屋委員：〈No. 52〉成人式を20歳としたのは、何か理由がありますか。

教育長：〈No. 52〉18歳の1月に開催することは、大学受験等を控えているため難しく、5月に開催するような自治体もあるようですが、高校までは地元の学校に通う生徒が多く、卒業して1か月後に成人式で集まってもあまり感慨がないなど、様々な理由から多くの自治体では、20歳で成人式を開催するところが多いようです。大学や就職などで、地元を離

れて、各地にいる人たちが、久しぶりに集まって、新たな出会いをする場でもありますので、この点にも重点を置き、また、皆さんの意見を聴き 20 歳での実施を決定しました。

土屋委員：〈No. 52〉20 歳の新成人が、「新成人のつどい」の実行委員会を運営しているのですよね。

教育長：〈No. 52〉そうです。

土屋委員：〈No. 52〉このような人は、あまりいないとは思いますが、市の施策を気にして岩倉に移住してくれるような人もいるとよいですね。市民にとっては当たり前すぎて、いろいろなことで市が努力していることは、伝わりにくいですね。

教育長：〈No. 52〉主権者教育で、少しでも若い世代から政治に関心を持ってもらいたいということを思っています。

土屋委員：〈No. 52〉教育振興基本計画のスタートが、岩倉に定住してほしい、岩倉の子どもたちが、引き続き岩倉を支える人材になってほしいという「まちづくり人」を育てることであるため、成人式も重要な節目になると思います。

〈 基本目標 3-1 から 3-4 までについて事務局説明 〉

益川委員：3 点申し上げます。

〈No. 56〉1 つ目は、いろいろなところに記載していただきましたが、市民ボランティアとの協働により企画運営したシニア大学や熟年者さわやかセミナーを、このコロナ禍においても頑張って実施したことは、ぜひ大事にしてほしいと思います。作られたものやあてがわれたものをこなすだけではなく、自分たちで作りに上げるという方向性であったと思いますので、このような動きは、もしかすると小さいかもしれませんが、すごく大事なことで、市民ボランティアの方々に実施していただいていることが、すごく尊いことだと思います。ぜひ大事に継続、さらに発展できるように行政として支援していただけると非常にいいのではないかと感じました。

〈No. 57、59〉それから 2 点目は、ご承知のとおり現在、国の第 3 期教育振興基本計画がスタートしており、人生 100 年ということで、その柱の一つが「生涯活躍」になっていると思います。せっかくのチャンスだと思いますので、生涯活躍の場が就労という場であるならば、No.57 の「社会人の学び直し等の支援」が必要になってきますし、単に就労だけではなく、活躍の場を社会参加や地域貢献といったように、もう少し生涯活躍の場を広げていくのであれば、No.59 の「ボランティア等社会に役立つ学びの機会の充実」も非常に重要な施策になってきますので、No. 57 と No. 59 は、そのような視点をもって進めていただけるとよいのではないのでしょうか。

〈No. 60〉最後 3 点目は、生涯学習サークル数や社会関係団体数が、後継者不足等があつて、なかなか目標値に達しないということがありますが、ぜひこのようなサークルの方や団体の方を子どもたちの学びと上手にマッチングできないかと思います。たぶん、いろいろな特技や経験、知識を持っている人が、ある意味、自分の楽しみとして活動していると思います。もちろん、このようなことも大事ですが、ぜひそれを子どもたちに分かち伝えるよ

うな視点が出てくると、前回検討したようなNo. 35の「学校・家庭・地域との連携強化」という施策ともつながってくるのではないのでしょうか。また、岩倉では大変多様に実施されている環境学習や健康学習にも活かすことができる場があるのではないのでしょうか。先日から言っている、相互のつながりや「学びの郷」にもつながってくると思います。このような市民が得た知識や経験を活かす場として、子どもの学びの場へのマッチングを意識されると、活動している側の生きがいにもなると思いますので、ぜひ推進していただきたいと思います。

土屋委員：＜No. 57、61＞今の益川委員のご意見に関連しますが、No. 57の「社会人の学び直し等への支援」やNo. 61「市民が企画・運営し、講師となる学習活動の促進」については、地域の企業の理解がないと、働いている人が生涯学習に参加したり、ボランティアに関わったり、講座を考えていくことは難しいと思います。岩倉市の計画は、この点に関して市民に参画していただく視点はありますが、実質化するために、やはり地域の企業や店舗などで働いている人に、どのように働きかけるのかということになると思います。一緒に講座を考えたり、スタッフとして参画してもらったりすることが、今後さらに必要になってくるのではないかと思います。講座を開催しても、参加する人はいつも同じ人であるとか、高齢の人で仕事がない人しか参加しないとといったことになると、せっかくの施策がもったいないと思います。そのような点において、地域の企業や商工会との連携は、具体的に進んでいますか。

教育長：＜No. 57、61＞時々、地域に本社がある企業が、学校教育に少し手を貸したいといった申出はあります。しかし、学校のカリキュラムが一杯で、子どもたちも放課後は忙しいといった状況であるため、なかなか、実現していない状況です。

土屋委員：＜No. 57、61＞生涯学習には、どのように関わってきますか。

事務局：生涯学習の必要性ということで重点を置いているのは、高齢者の生きがいや、地域の絆づくりであると思います。前回の評価部会でもご意見をいただきましたように、活躍の場などを横断的にマッチングさせていくためには、例えば、将来コミュニティスクールを考える際は、前回の評価部会では、現在の学校評議員制度などの既存組織に焦点を当てて、人材探しを進めていきたいといったことを言いましたが、生涯学習講座を受けられた方に声をかけるなどの視点も持って、人材発掘を進めていければと考えています。

土屋委員：＜No. 57、61＞社会人の学び直しなどで、まちづくり検定や岩倉検定など、私はそれがよいとは思っていませんが、発想として例えば、地域の会社で外国にルーツをもつ人たちが働くときに、会社ごとで実施するというやり方もありますが、やさしい日本語でのマナー講座や、やさしい日本語での安全講座などを岩倉市も関わって、その地域と一緒に生涯学習として実施し、参加した人には修了証だけではなく、資格を与え、就職のときの経歴書に記載できるといったことがあってもよいのではないのでしょうか。岩倉市でこのような講座を受け、このような資格を取得し、その資格を持っていると就職に有利になるといったことをしないと、なかなかモチベーションも上がらないのではないのでしょうか。大学の講座も一緒ですが、ニーズがないところで、講座を開いて来てくださいますよ、

受講する人はいません。頼んで受講してもらい、数値だけを残していくことになっていきます。実質的な市民参画や社会人の学び直しにつなげるためには、地域の企業や商工会等を含めて、一緒に企画し、それを受講した社員にとって、プラスになるといったメリットを提供していけるような発想で実施していくと、岩倉の全体ビジョンと最終的には合致してくるのではないのでしょうか。その中に、文化的な講座や芸術的な講座も含めていけば、社会人の学び直し等への支援であるとか、市民が企画・運営し講師となる学習活動というのは、非常に評判のよい講座になると思います。そのため、施策として実施できる充実した方法を開発していただき、今後、評価書に記載していただけると、他の自治体も参考として、固定観念も覆る可能性があると思います。これは重要な施策だと思いますので、引き続き、実質が伴うようお願いしたいと思います。

山田委員：＜No. 57、61＞私は、技術センターで働いている開発職です。近くには製造業が多いため、技術畑の人も多くいます。岩倉市は、住むまちとしてはすごくよいのですが、企業と岩倉市のつながりは、すごく希薄なように思っています。例えば、大口町は、何らかの形で企業側も恩恵を受けているため、企業からの協力体制があるように思います。岩倉市は、住んでいるだけであるため、企業と協力できるような状態ではないなと思います。No. 57の「社会人の学び直し等への支援」についても、私たちの世代は、セカンドキャリアを考えている人もいますし、サイドビジネスであれば、企業が認めてきています。例えば、地域貢献であれば、より実施しやすくなっています。そのため、地域の企業とつながりが強ければ、協力はしてくれると思います。技術畑になると少し守秘義務で言えないこともありますが、技術や経験がありますので、早い段階でつながりをもてるとよいのではないかと思います。

益川委員：＜No. 57、61＞18歳人口が減り、大学も18歳から22歳くらいまでだけをターゲットにするのではなく、社会人に対しても支援していかなければならないといった問題意識を持っています。名古屋芸術大学では、既に実施されていますが、大学も職業人に対するリカレント教育を実施していこうとする動きは少なからずあるのではないかと思います。それから、企業も体力のある大企業が中心になると思いますが、今は、SDGsということが言われており、それに貢献しているか否かということが、就職活動をしている学生が、その会社を選ぶ基準になっているところもあり、社会貢献については、それなりに企業側も問題意識を持っていると思います。そのため、もしかしたら、企業や大学の方からのニーズがあるのではないかと思います。

土屋委員：＜No. 57、61＞住みやすいまちとして選ばれている結果、他の市町村で働いて、岩倉で暮らすといった形になっていると思いますが、住みやすさを維持するためには、あるいは、発展させていくためには、働いている人たちの勤務先などと、どのようにつながるかが課題になってきそうですね。

内藤委員：＜No. 60＞新型コロナウイルス感染症の影響で、生涯学習サークルの活動が制約されてきましたが、5月に生涯学習センターのFree Wi-Fiが更新され、使いやすくなりました。そのため、機材を持ち込まなければなりません、各部屋の人数制限の関係もある

ため、対面とオンラインのハイブリット型の活動を始めました。サークルにしても高齢化しており、私も一生懸命必死にやっていますが、これからは違った動きが出てくると思いますし、講座や学びの郷などでも実施方法が変わってくるのではないかと思います。そのため、このような実施方法の指導があってもよいのではないのでしょうか。Free Wi-Fi が整備されていますので、使用してくださいといった案内だけではなく、このような使用方法がありますといった案内があるとよいのではないかと感じました。

<No. 65> 読み聞かせ等の講座参加者数の目標が 75 人というのが、良いのか悪いのか、高いのか低いのかは分かりませんが、図書館もただ待っているだけではなく、図書館に行かなくても何かできることを考えてはいかがでしょうか。昨年度、国際交流協会では、何かできることはないかと考え、オンラインで読み聞かせを行いました。日本語、英語、ポルトガル語、モンゴル語の 4 つで参加者を募って、オンラインで読み聞かせを行いました。図書館でもこのような工夫ができるのではないかと思います。外国籍の方は、かなり Zoom 等のミーティングツールを持っているため、図書館の建物に行かなくてもできる企画を考えていただけるとよいのではないのでしょうか。

土屋委員： **<No. 65>** ショッピングセンターなどにも図書館のサテライトがあるといいですね。昔は移動式図書館など、バスで移動していましたが、今は皆さんが車を持っているため、どこへでも行けます。しかし、車を持っていても、行くところは図書館ではなく、違う場所に出掛けています。図書館に行くという習慣がないのだと思います。企業と市が連携して、ロコミで、こんなことをやっているといったことが広がっていくとよいですね。

内藤委員： **<No. 60>** サークルも高齢化していますが、生涯学習センターも Free Wi-Fi が整備されているため、工夫していただけるとよいと思います。

土屋委員： **<全体>** 私たち評価委員の意見については、実施できるように他の部署にも働きかけてもらい、実現していただきたいと思います。前回の評価部会からの引き続きになりますが、各施策がつながるアイデアを発信していただきたいと思います。

益川委員： **<No. 61>** 教育行政としての生涯学習の今後の方向性については、内藤委員の発言で明らかなように、市民はかなり成熟していると思っています。そのため、行政がすべてを担うのではなく、市民の自主的な活動に公共性を見出し、支援していくような行政のスタンスの変換が必要ではないのでしょうか。

土屋委員： **<No. 61>** まちづくり人は、既に育っているといった視点で、どうマネジメントしていくのかということになるのではないのでしょうか。

< 基本目標 4-1 から 5-3 までについて事務局説明 >

土屋委員： **<5-1>** 成果指標の郷土資料のデータベース化の整備率が、令和 3 年度の目標値が 95% であるのに対して、令和 2 年度の実績値が 48% であることは、何か要因はありますか。

事務局： **<5-1>** もともと、資料が 3 千点あるため、目標を高くしたとは思いますが、なかなか進まない中、さらに新型コロナウイルス感染症の影響で、このような整備率になってい

ます。

土屋委員：<5-1> 今後は、どうしたらよいのでしょうか。

益川委員：<5-1> なかなか難しい問題ですよ、例えば、山車保存会の会員を増やすということなど、非常に難しい数値目標が多いような気がしていて、要因を探らなければならないとは思いますが、前回の評価部会で言ったことと自己矛盾しているかもしれませんが、量がだめなら質で勝負するしかないと思っています。もちろん数値を上げることも努力していただきたいと思いますが、例えば、学校に活用されたり、生涯学習講座に活用したりしたといったことが、いろいろなところに見受けられるため、このような質のところを強調していいのでしょうか。子どもたちの授業に活用されているとしたら、すごく良いことだと思いますし、生涯学習で活用されているのであれば、ふるさと意識の醸成や、愛着ということに資しているという観点で評価をしていくことが必要ではないかという気がしています。データベースについては、もう少し社会科で使用できるのではないかと思いますので、このように学校活用や生涯学習講座での活用など、質を上げていき、併せて数値も上げるよう努力していくことがよいのではないのでしょうか。

土屋委員：<5-1> 基本的な視点が今、益川委員から指摘されたと思います。要するに、どうしても量で記載していますが、質の部分がどうであったのかというところの評価についても、もう一度見直すと、かなり評価できる部分があるのではないかといった指摘だったと思います。単純に数値目標に達しなかったから駄目というわけではなく、このような視点で、評価を記載していただくとよいのではないのでしょうか。

益川委員：<5-1> 今、大学では、例えば山車がうまく使用されていないであるとか、文化財が活用できていないため、それを若者目線に変えてほしいといった自治体からの依頼が多くあります。大学としても地域に学ぶといったことや、地域で学ぶといったアクティブ・ラーニングがすごく大事であるということが言われており、特に伝統的な文化芸術については、若者の視線を取り入れていく、コラボレーションを行っており、学生たちもそのようなことには、すごく興味を持ち、楽しみながら取り組んでいます。また、地元の人知らないような仏像を観光ルートなどに取り入れてはどうかといった、若者であるため想像もしていなかったようなことまで言い出し、大変面白いアイデアが出てきたりします。このように、大学などの機関とコラボすることで、質を上げていくことも考えられるのではないのでしょうか。

土屋委員：<5-1> 今回は、このような結果ですが、これに関わられた方の声は聞いていますでしょうか。新聞では、イベントがあればイベントの参加者であるとか、子どもがいたら子どもの声を聞いて、その声を掲載したりします。要するに、何が良かったのかは、それに関わった人の声を聞くことだと思います。どのような点が参加者から評価されたのか、参加者はどのような充足感があったのかなど、数ではなく質を上げていくということですよ。先ほどの、データベースにしても、データをどのように使用したであるとか、学校のICT化に合わせて、今後、どのように活用が促進されていくといった質の部分で、記載し、評価していくということになると思います。

益川委員：＜No. 75＞先ほどの話につなげると、学習指導要領が改訂され、探究の時間が増えてきたと思います。今まで、ふるさと学習というとふるさとのことが主でしたが、今はもう少し進んで、ふるさとを良くする学習として、ふるさと学習があると思います。子どもたちなりにどんな課題があつて、あるいは、どんな将来になってほしいのかといった未来像を描きながら、どのようにデータが活用できるのか、今まで学んできたことをどのように使えるのかを考える解決型学習になってきています。このように、ただ知るだけではない、自分たちで良くするようなことをふるさと学習に位置付けているところもあるため、このようなことで伝統文化を伝えていけたらよいのではないかと思います。

土屋委員：＜No. 75＞普段から山車の保存に参加する子どもたちもいますよね。

教育長：＜No. 75＞山車のある地域の子どもたちは、お囃子やからくりなどに関わっています。

土屋委員：＜No. 75＞山車に限らず、岩倉市としてすべての学校の子どもにチャンスを与えていくため、文化であればその文化を伝え発信していくような活動とコラボして行っていくといった発想があればよいのではないのでしょうか。各地では、実際にお祭りを支えているのが小学生や中学生だったりすると、この2年間はお祭りが開催できなかったため、その伝統文化を継承できないといった問題が生じているようです。先輩が後輩に教えることで、お囃子が伝わっていたのに、その継承ができないなど、他の地域ではかなり深刻な問題であることが伝えられています。子どもが地域の文化に関わることを学校教育の一環とし、それがつながっていくと、単純に数だけの問題ではなくなってくるように思います。今回の評価というわけではなく、これからの評価になっていくと思いますが、大変重要なご指摘だったと思います。

益川委員：＜No. 72＞フラダンスが文化協会に加入したということは、成果指標の目標値にも達していることから、もっとアピールしてもよいのではないかと思います。新旧融合、文化融合というわけではありませんが、これは珍しいことです。ある市の市長から「文化協会のでこ入れができませんか。」といった相談を受けたことかあったときに、フラダンスが文化協会に加入した市があることを話したらすごく驚いていました。もちろん伝統文化は、大事にしなければなりません、文化はもっと幅広いもので、様々なものがあります。新しい文化もあれば、若者文化もあります。幅広く捉えたら1 + 1 = 2ではなく、3や4になるような、面白い組織になるのではないのでしょうか。どこの場で言っても驚かれるため、もっとアピールしてもよいのではないかと思います。

内藤委員：＜No. 70＞まちづくり文化振興事業については、令和3年度は、市民ミュージカルとアマチュア無線の2団体から申請がされたと思いますが、それ以外は、なかなか申請がされません。このような制度があること自体知られておらず、広報紙に掲載しても読まない人は読まないと思います。市民ミュージカルは、パンフレット等にまちづくり文化振興事業の制度を活用したことが掲載されると思いますが、もっと小さい事業であっても、まちづくり文化振興事業を活用している事業であることをアピールしていかなければ、誰がどこで何をやっているかも知られないまま終わってしまうのではないのでしょうか。また、

この評価書の中には、「文化団体やまちづくりにつながる活動をしている人が集まる場所に出向いてPRするなど、積極的なPR活動に取り組んでいきたいと考えます。」と記載されていますが、既成のものに頼ってしまっている感じがあります。例えば、スポーツ協会も立派な文化だと思いますので、そのような団体で、大人と子どもの対戦をやってみるのも面白いのではないかと思います。いろいろな団体が高齢化していますが、既成の団体だけではなく、「こういったことがやりたい。」と中心となって活動してくれる若者を集めて、動き出したら面白いのではないのでしょうか。しかし、このような制度があるから利用してくださいと言っているだけでは、集まらないような気がします。せっかく、このような制度があつて、活用できるのであれば、実際に制度を活用した人が、もっと自分たちのことをPRしたらよいと思います。普段、何をやっているか分からないところで活動されているのは、少し残念ですね。

山田委員：<No. 70>私も同意見です。これまでの芸術や文化を大事にされていることは良いことですが、新進気鋭の新しいことをしている人たちは、一つの文化を作り上げるステップを踏もうとしていると思います。このようなときに、どのような協力をしてあげられるのかを周知できるとよいのではないのでしょうか。例えば、YouTube で新しいことをやりたいと思っている子どもたちがいますし、東海オンエアは、岡崎で観光伝道師となり岡崎市に貢献しています。きっかけは、遊びをインターネットに掲載しただけなのかもしれませんが、地域貢献としては、その段階から考えられたシナリオであったように感じました。そのため、誰かが新しいことに対していち早く見つけてあげることが大事ではないかと思えます。保護者でもいいですし、何かのルートがあつて、企画していることを誰かが見つけてあげることが大事だと思います。

土屋委員：<No. 70>一般に広く周知しても、集まってこないため、核になる人をどう作っていくかという育て方に関して、非常に重要な今後の方向性についてのご意見だと思います。

益川委員：<3-1~3-3、4-1>生涯学習のときに発言すべきことだったかもしれませんが、生涯学習講座も新型コロナウイルス感染症の影響でかなり中止にせざるを得なかったと思います。また、文化・芸術に関しても行事、イベント等は中止にせざるを得なかったと思いますが、せっかく生涯学習や文化に足を踏み入れてくれた人を何とか引き留めるため、例えば、新型コロナウイルス感染症が収束したときには、このような企画を考えているといった情報発信ができるとういのではないのでしょうか。私に関わっている高齢者の講座やセミナーでも、特に対象者が高齢者ということもあつて、コロナ禍でセミナーをすべて中止しましたが、「このままなくなってしまうか。」などの声を多くいただきました。フィジカルディスタンスは、確保しなければなりません、真の意味でのソーシャルディスタンスは、近いところで保っておかなければならないといったことを感じました。「今後は、このような企画を行います。」や、「現在、このようなことを考えています。」など、近況報告でもよいので、情報発信などの手立ても考えていかないと、参加していただける方が離れていってしまうことを心配しています。

土屋委員：本日のような対面式で、このような会議であると発言しやすいと思います。皆さんの表情を見ることができ、また、事務局の前向きなイメージが伝わってきますので、そのような意味では、話していることが共有できると感じています。

＜ 基本目標 6－1 から 6－3 までについて事務局説明 ＞

土屋委員：＜No. 88＞課題・今後の方向性では、「新たな活動場所の確保についても研究していきます。」と記載されていますが、可能性はありますか。

事務局：＜No. 88＞場所につきましては、検討中です。しかし、市内の施設は限られているため、市内に限らず、例えば市外の民間企業の体育館など、どの程度の施設があるのか不明で、施設管理者と話ができるのかも分かりませんが、まずは調査研究をしていく必要があると考えています。

土屋委員：＜No. 88＞市内の学校だけでは、いっぱいということですね。

益川委員：＜No. 80＞課題・今後の方向性で、『健幸』を意識したイベント・教室の開催に努めます。」と記載されていますが、今までもシニア向けの教室やイベントなどは、多く開催されてきましたか。

事務局：＜No. 80＞総合体育文化センターの指定管理者によるシニア層を対象としたヨガ教室などや、健康課との協働事業になりますが、体力チェック事業としてトレーニング室の利用者を対象に、自分の現在の体力を確認するため、握力や立ち上がりの検査を年 2 回実施していました。

益川委員：＜No. 80、81＞コロナ禍のステイホームにおいて、体を動かしにくい環境があったと思いますが、オンラインを活用するなど、何か工夫をしたイベント等の開催ができなかったのでしょうか。

事務局：＜No. 80、81＞いわくら市民健幸マラソンについては、令和 2 年度は中止としました。他の自治体等でも開催しているオンラインマラソンを、スポーツ協力団体にも提案しましたが、協力団体からは市民が集まってマラソンに参加することが重要との意見を受け、オンラインマラソンは実現できませんでした。また、市民体育祭についても、規模を縮小して開催できないのかスポーツ協力団体に相談してみましたが、市民体育祭についても各行政区が集まって、地域間交流や世代間交流をすることに意義があるため、規模を縮小してまで開催する意味はないのではないかと意見をいただきました。このような経緯もあり、いずれのイベントも開催には至りませんでした。今後も引き続き、スポーツ協力団体等に相談しながら、イベントの内容について検討していく必要があると思います。

益川委員：＜No. 80、81＞開催方法などについては、スポーツ協力団体にも相談しながら、方法を工夫しつつ、各イベントの当初の目的を達成するような形でやり方を模索していくということですね。ありがとうございました。

山田委員：＜No. 81＞民間企業では、1 か月イベントというものがあります。例えば、1 か月間、ウォーキングするというものがあり、アプリをダウンロードすれば誰でも気軽に参加できるものです。岩倉市では、夜、五条川を歩く人が非常に多いと思います。五条川沿い

には健康遊具もあり、大切な健康維持の場であると思います。せっかく歩くのであれば、歩いた距離をデータベース化してモチベーションを上げる工夫をするなど、市民にとって良い提案をしていただけるとよいと思います。

内藤委員：<No. 84> 自己評価に「特に水曜教室の参加者は親子連れが多く、また高齢者も多く参加していることから、多世代交流の機会ができています。」と記載されており、このことに対しては、非常に良い取組だと思えますが、教室で終わらせないで、そこから一歩踏み出し、イベントに繋げていけるとよいのではないのでしょうか。

事務局：<No. 84> 現在、水曜教室ではカローリング、ミニテニス、ラージボール等を実施しています。スポーツクラブでは、年4回の交流会等のイベントがあり、中でもカローリング大会では、この水曜教室で仲間になった会員が、日頃の練習の成果を発揮する場所として参加し、様々な方と交流しています。また、カローリングだけに限らず、他の種目についても外に出ていくイベント等の開催について考えていきたいと思えます。

土屋委員：<No. 84> スポーツクリニックは、令和2年度は開催することができなかつたため、令和3年度に開催することができるようになったら、令和2年度分の参加者も合わせて参加することはできませんか。

事務局：<No. 84> 令和3年度は、今のところ8月24日に開催する予定です。指定管理者とも話をしていますが、この1回のみで、2年間分の参加者が参加できるということではありません。

土屋委員：これですべての自己評価の審議をさせていただきましたが、評価部会が出された意見等は、今後どのように反映させていきますか。

事務局：施策の指標については、大きく数値が増減しているもので、原因が分かるものにつきましては、説明を追加させていただこうと思えます。

土屋委員：それでは、点検評価につきましてはこれで終了させていただき、事務局に進行を戻しますので、よろしくお願いします。

4 その他

事務局：今後の予定としましては、評価部会でいただきました意見等につきまして事務局でまとめて、7月30日の金曜日までには委員の方々にお届けしたいと思えます。恐れ入りますが、8月6日の金曜日までにご確認をお願いいたします。それを受けて、報告書(案)を作成し、8月23日の定例教育委員会に議題として挙げて、承認をいただけたら、議会に報告し、公表していくこととなりますのでご了承ください。また、既にご案内していますが、8月27日の金曜日には、教育振興基本計画の中間見直しの第1回推進委員会全体会を開催させていただきますので、引き続き、よろしくお願いいたします。

2日間に渡り、教育委員会事務についての点検・評価をいただきありがとうございました。それでは、ここで教育こども未来部長よりご挨拶をさせていただきます。

教育こども未来部長：土屋部会長を始め委員の皆様には、やさしく評価していただいたと思っています。昨年度は、新型コロナウイルス感染症で逃げてしまったコメントも多か

ったと思います。代替のものができたのであれば、そのようなことも記載してはどうかとのアドバイスをいただきましたが、記載できるものはすべて記載しています。そのため、実際にはできていないということが正直なところです。今年度も既に中止になっているイベントもありますが、まだ、今年度は前半ですので、対面とオンラインや、デジタルと手触りといった良いキーワードもいただきましたので、評価部会でいただきましたご意見については考えながら、事業を進めていきたいと思っています。また、本日は地域企業との連携といったお話もいただきました。岩倉の場合は、あまり大きな企業はありませんが、お祭りには地元の企業も出店していました。今は、お祭り自体も開催できなくなっており、コミュニティやつながりが希薄になっていることを非常に危惧しています。市民体育祭という岩倉独特の行事も2年連続で中止になってしまい、来年度、再開できるのかということをお心配しています。コミュニティを維持していくということに、教育部門だけではなく注力していく必要があると思っています。学校では、急速に1人1台端末の整備が進み、今年から本格的な運用が始まりました。先日も小中学校PTA連合会教育懇談会が開催され、私も初めて整備した端末に触れましたが、子どもたちはあっという間に覚えてしまって、授業で見たときは、入力も早く、検索も慣れているようでした。大人がついていけないといった感じがしました。明日から夏休みですが、端末の各家庭への持ち帰りも始まります。夏休み明けには、すごくスキルアップされているのではないかと思います。これからは、デジタルを避けては通れないとは思っていますので、そのようなことも意識しながら事業を進めていきたいと思っています。コロナ禍になって気が付いたことは、集団とか集合、集中というイベントは、新型コロナウイルス感染症が収束に向かっても厳しいのではないかと思います。日々の活動への呼びかけも大切になると気が付かされたところです。教育振興基本計画の基本理念を定めるときに、内藤委員から学ぶ、教えるではなく、教えている側も学ぶことが必要といったご発言があり、「学びあい」としましたが、このことも意識しながら、これからの事業を考えていきたいと思っていますので、よろしく願いいたします。評価部会では、励ましの言葉をいただいたと思っていますので、今年見直せるところは見直していきたいと思っていますし、来年度の新しい事業にも活かしていきたいと思っています。また、今年では中間見直しという大きな節目の時期を迎えますので、引き続き、ご協力をお願いいたします。2日間、ありがとうございました。

5 閉会

以上